

冬の本

今回の特集のテーマはずばり“冬”。冬には冬の楽しさや美しさ、厳しさ、恐ろしさがあります。ここでは様々な冬の一面が垣間見える本を集めました。



『5分で読める！
ひと駅ストーリー—
冬の記憶東口編』
宝島社
BFコ
篠崎ほか所蔵

冬にまつわる様々なストーリーを集めたアンソロジー。冬の寒さのような厳しい話、ほっこり暖まる話、意外な展開の話……など、28話。驚いて、笑って唸って、ちょっぴり泣ける、読み応えのあるショートショート集で冬のひと時をお楽しみください。



「甲府在番」
（『冬ごもり』所収）
松本 清張著
KADOKAWA
BFフ
篠崎ほか所蔵

病死した兄の跡を継ぎ甲府勤番となった伊谷求馬。実は彼の兄は、病死ではなく行方不明となっていた。彼は同僚の上村周蔵と兄の失踪の謎を追うことに。核心に迫るも、罠にはまり雪山を彷徨する二人。追い詰められた彼らが山小屋で見たものとは——。少し怖い作品です。



「焚火」
（『百年文庫20』所収）
ジャック・ロンドン著
ポプラ社
908ヒ20
篠崎ほか所蔵

零下50度を下回る極寒の地を男は採掘場へ向かう。息が凍ってみるみる白い結晶になる。同行する犬は本能で感じとっていた、この寒さ、旅などする時ではないのだ。読み進むうちに、こちらもどんどん寒くなっていく。ぜひ暖かい部屋の中でお読みください。



『野草のロゼット
ハンドブック』
亀田 龍吉著
文一総合出版
470カ
篠崎ほか所蔵

ロゼットとはバラの花のように放射状に生えた植物の状態。厳しい寒さに耐えるため地に伏しているのです。一見枯れた野原や道端で見つけられます。春になったらどんな花を咲かせるのか図鑑で確かめながら冬の散歩を楽しんでみてはいかがでしょうか。



『その雪と血を』
ジョー・ネスボ著
早川書房
949ネ
篠崎ほか所蔵

殺し屋のオーレグはボスの妻を始末するよう命じられるが、美しい彼女を一目見た瞬間、恋に落ちてしまい……。冬のノルウェーを舞台に起こる凄惨なストーリー。読後の切なさを、降りしきる雪がそっと包み込んでくれるような静けさが心に沁みる。



『雪と氷の図鑑』
武田 康男著
草思社
451夕
篠崎ほか所蔵

雪氷の美しさを追い求める著者が収めた写真は自然物とは思えないほど美しい。特に霜が花のように成長したフロストフラワーの可憐さは必見。一方で雪崩や雪が屋根から落ちそうな形のまま固まった巻き垂れは雪と関わる生活の困難さを物語る。自然の優美さと厳しさを感じられる良質な図鑑だ。



『雪だるまの雪子ちゃん』
江國 香織著
山本 容子銅版画
新潮文庫
BFエ
篠崎ほか所蔵

雪子ちゃんは野生の雪だるまだ。小さな山村で暮らす彼女の日常が優しい筆致で描かれているが、純粹無垢な雪子ちゃんが時折見せる「野生動物」としての鋭さが味わい深い。かわいらしさだけではなくところが大人のための童話と呼ぶにふさわしい。



『雪』
中谷 宇吉郎著
岩波文庫
B451ナ
篠崎ほか所蔵

雪の研究で有名な中谷宇吉郎の代表的な著書のひとつ。専門的な話も多いが、この本全体から伝わってくるのは雪への強い情熱と、一つのことに一生をかける研究者としての姿である。自分には持ち得ない姿勢に、憧れと尊敬の念を抱いた一冊だ。